

検索の豆知識

vol.23



論文を探そう

課題や研究のテーマが決まっている場合、その分野の「新しい研究成果」や「細分化された主題」が取り上げられている論文・雑誌記事を集めて読みこむことは、学習や研究を深めるためには欠かせません。

では、特定の分野の論文や記事はどのように探せばよいでしょうか。複数の方法から最近の研究動向や論文の内容を探ってみましょう。今回は国内の論文・雑誌記事について、『飛鳥時代の仏像に関する論文』の検索を例にとって紹介します。

1 データベースで調べる

最新の研究動向はインターネットで調べると便利です。ただし、その情報が信頼できる発信源からのものであるかを見極めることが重要。政府・研究機関などの情報を優先しましょう。次に挙げるデータベースはどちらも国立研究機関のもので、検索窓に「飛鳥^{トビ}」と「仏像」とキーワード入力して、実際に検索してみましょう。

ツール ①

「CiNii Articles (NII論文情報ナビゲータ) <http://ci.nii.ac.jp/>



国立情報学研究所(NII)による、国内の学会等で発行された学術雑誌や大学等で発行された研究紀要の論文情報を検索できるデータベースです。ヒットした論文情報のリンクより、本文が読めるものもあります。自宅からアクセス可能ですが、学内からアクセスすると閲覧可能な論文数がさらに増加します。毎週更新されます。

ツール ②

「NDL-OPAC (国立国会図書館蔵書検索システム)」

<https://ndlopac.ndl.go.jp/>



国立国会図書館(NDL)所蔵の和図書、洋図書、和雑誌・和新聞、洋雑誌・洋新聞、電子資料、国内博士論文などを検索できます。また学術雑誌を中心とした国内刊行雑誌の「雑誌記事目次索引」が毎週更新され、利用できます。国立国会図書館(NDL)へ国内で発行されたすべての出版物を納入することが義務づけられているため、網羅性・速報性に優れたデータベースといえます。

2 参考図書で調べる

データベースには収録されていない論文や記事を探す、あるいはテーマについての知識を深め、検索のキーワードをさらに広げるために、探している分野の専門の辞書・事典を利用するのも有効な手段です。参考資料室で実際に複数の事典を引いてみると、文献の情報を得る手がかりとなります。

ツール ③

例 データベース収録外の、飛鳥の仏像について書かれた文献は…

『日本東洋古美術文献目録』

昭和11～40年刊行の雑誌や紀要などから収録した古美術に関する文献情報を集めた目録です。仏像、建築物、絵画などの項目別、さらに所在地や技法、素材などの細項目からも引くことができます。続編にあたる1966～2000年版もあります。

『日本東洋古美術文献目録』
昭和11年～40年定期刊行物所載
東京文化財研究所美術部編
中央公論美術出版
場所：参考資料室

702.1
NI

ツール ④

例 仏教や仏教美術、仏像について知識を深めるには…

『仏教美術事典』『日本仏教史辞典』

仏教美術や仏教史の概要や専門用語を調べることができます。『日本仏教史辞典』には各項目の参考文献が掲載されています。さらにその項目の末尾に記された執筆者名にも注目し、その執筆論文を探してみよう。

『仏教美術事典』
中村元、久野健監修
東京書籍
場所：参考資料室

702.098
N

『日本仏教史辞典』
今泉淑夫編
吉川弘文館
場所：参考資料室

180.33
NI

『仏像レファレンス事典』

探す仏像の図版がどの図書に掲載されているかを調べることができます。

『仏像レファレンス事典』
日外アソシエーツ株式会社編集
場所：参考資料室

718.031
BU

集めた論文記事や図書のほとんどの文末・巻末には「参考文献」が挙げられており、ここからもさらに検索の範囲を拡げることができます。

このように、論文探索にはいろいろな方法があります。皆さんもぜひ、課題・研究のテーマをキーワードに、実際に論文・雑誌記事を探してみてください。

おすすめ
レファレンスブック

『日本美術作品レファレンス事典： 日本画』

個人美術全集 絵画篇

I 明治－昭和中期、II 昭和後期－平成

レポートの課題に出た作家の作品を見たい時、皆さんはどうしますか？一番早いのはインターネットの画像検索ですが、作品名や作家名で検索しても必ずしもその作品が出てくるとは限りませんよね。また運良く出てきたとしても画質が悪い、画像が小さいなど悩みはつきません。参考作品としてレポートに画像を載せる時などは尚更です。そんな時、役に立つのがこの『日本美術作品レファレンス事典』です。日本美術作品レファレンス事典シリーズとして『彫刻篇』『工芸篇』などが本学に所蔵されていましたが、昨年ついに『絵画篇：日本画』が登場しました。この本を使うと、探している作家の作品がどの画集のどこに載っているのかを調べる事ができます。

作家名と作品名、両方の索引があるので、どちらかしか覚えていない場合でも大丈夫。また従来のシリーズでは対象外となっていた個人美術全集や画業を概観することのできる作品集へのアプローチが可能となったため、作家の全集などには掲載されていないような作品に出会えるチャンスにもなります。例えば、伊藤若冲の『百獣図屏風』という絵を見たい場合、作家名か作品名から探します。

すると、この作品は紫紅社から1993年出版の『若冲 Jakuchu』の図141に掲載されていることがわかりました。あとは調べた本が本学にあるかどうかOPACで検索します。実際に検索してみるとこの本は本学にもあり、図版も一部拡大されていて大変見やすい作品集でした。

このように簡単に求める図版を探すことのできる一冊を、ぜひ活用してみてください。



702.1
NI
1

702.1
NI
2

『日本美術作品レファレンス事典：日本画
個人美術全集 絵画篇』
明治－昭和中期版
昭和後期－平成版
日外アソシエーツ株式会社編
場所：参考資料室

データベース

「連想」から本を探す Webcat Plus

現在出版されている本は膨大な数に上ります。図書館に置いてある本に限らず、出版されているたくさんの本の中から自分の研究テーマや興味のある本を幅広くかつ効率的に探したい時、Webcat Plus(ウェブキャットプラス)というデータベースを使ってみてください。このデータベースでは、江戸期前から現代にいたるまでに出版された本を対象に検索でき、書名や著者・出版社などの情報はもちろん、目次の確認、所蔵している大学図書館や古書店の在庫を確認することもできます。

検索方法は一致検索と連想検索の二つに分かれます。

一致検索

いわゆるキーワード検索のことで、本・作品・人物のそれぞれで調べることができます。さらに詳細な条件での絞り込みも可能。

連想検索

Webcat Plus最大の特徴でもある検索方法。人間の思考に近い検索技術を用い、キーワードではなく文章を入力して検索できます。入力した文章から連想される内容の関連度の高い順番に結果が表示されます。検索結果画面の右側に表示される「連想ワード」を使用してさらに検索を拡げること。

検索をした情報を一時的に自分の仮想の本棚としてデータを保存できる「連想×書棚」機能もオススメです。様々な角度から発想を変えて検索できるデータベースなので、思ってもみなかった本に出会えるかも知れません。ぜひ一度活用してみてください。

アクセスは芸術文化情報センター HP「学術情報を 探す」から。もしくはGoogleやYahoo!などで「Webcat Plus」を検索してください。



Webcat Plus

<http://webcatplus.nii.ac.jp/>

